



■ 奈良文化財研究所創立 50 周年記念

『飛鳥・藤原京展』

本年に奈良文化財研究所が創立 50 周年を迎えるを記念して、『飛鳥・藤原京展』を開催します。奈文研・朝日新聞社・各開催館の主催で、大阪歴史博物館（6月1日～7月28日）、東京都美術館（8月10日～9月29日）、東北歴史博物館（10月11日～12月1日）、四日市市立博物館（12月21日～2003年3月9日）の4カ所を巡回します。

飛鳥を対象とした展覧会としては、高松塚古墳の壁画が発見された直後の1972年から翌年にかけて『飛鳥展』が開催され、大きな関心を呼びました。その

後30年、飛鳥・藤原地区では次々に発掘調査がおこなわれ、考古学に限らず古代の飛鳥・藤原京に関する多くの研究成果が蓄積されてきました。今回の特別展では奈文研が調査した飛鳥寺・川原寺・山田寺・吉備池廃寺・飛鳥池遺跡・水落遺跡・石神遺跡などの研究成果を中心に、律令国家が形成されていく7世紀という時代を総合的に捉えなおします。

展示に関しては、古代の情景をイメージしやすくするために、古代飛鳥の景観を再現した大型模型、山田寺金堂の軒先や灯籠、水落遺跡の水時計、壬申乱の武人、藤原宮の元日朝賀に用いられた幢幡といった模型を新たに製作しました。また富本銭の鋳造実験の成果も加えて、一般の人にもわかりやすいよう工夫しています。その他の展示品は各遺跡から精選した出土遺物をはじめ、仏像・古文書・工芸品・建築部材など約140件。高松塚古墳出土品、石神遺跡の石人像、興福寺鎮檀具などの国宝や重要文化財も含まれます。また飛鳥池遺跡から出土した「天皇」木簡、昨年藤原京から出土した中務省関係木簡の実物が、期間限定で展示されます。

本展覧会と関連して、6月22日に公開講演会を特別展会場の大歴博でおこないました。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部)



『飛鳥・藤原京展』図録表紙



展示作業の様子